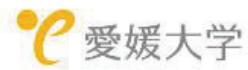


災害列島の歴史と文化を守る －全国資料ネットの活動について－

愛媛大学法文学部
教 授 胡 光
EBESU Hikaru
愛媛資料ネット代表



新聞記事のため削除

1995年の阪神・淡路大震災を機に設立された歴史資料ネットワークを皮切りに、全国各地で20以上の史料ネットが立ち上がり、災害から歴史資料を保全し、災者の記録を保存する活動に取り組んでいます。2011年3月の東日本大震災では、国の被災文化財等救援委員会の活動とともに、史料ネット同士の連携と協力によって、地域に伝えられた多くの歴史・文化遺産が救出されました。2014年10月には国際文化財機構内に「文化防災ネットワーク推進本部」が設置され、本年4月に発生した熊本地震を経て、歴史・文化遺産の防災に向けた全国的な連携体制づくりの強化が望まれています。

2015年2月、阪神・淡路大震災と歴史資料ネットワークの活動開始20年の節目に、神戸市で開催された第1回集会では「地域歴史遺産の健全・継承に向けての神戸宣言」が採択されました。東日本大震災5年の節目にあたる2016年3月には、被災地の一つである福島県内で第2回集会が開催され、被災地で取り組まってきた活動から得られた経験を共有し、大規模災害に対する日常的な備えのあり方を展望しました。

昭和南海地震70周年の本年12月、愛媛県松山市において第3回集会が開催されるはこびとなりました。本会では「神戸宣言」をふまえ、地域の歴史資料を保全する実践に向けての連携と発展させるとともに、保全した資料を活用して、災害に強い地域社会などのように創っていくかについても考えてみたいと思います。

ご多用申縮ではありますが、ぜひ全国から多くの関係者や一般の皆様にお集まりいただき、議論と交流を深めていただけますよう、お願いいたします。

開催日時

2016年

12月17日(土) 13:00~18:00

12月18日(日) 9:00~13:00

入場無料
事前申し込み不要

会 場

愛媛大学南加記念ホール ☎ 089-8577 愛媛県松山市文京町3

*JR松山駅から市内電車環状線(古町方面行き)赤十字病院前下車

*松山市駅から市内電車環状線(大街道方面行き)赤十字病院前下車

主催 愛媛大学法文学部・国際行政法・独立行政法人国際文化財機構

共催 愛媛大学法文学部・科学研究費補助金基盤研究(S)

「災害文化形態をどう地域歴史資料の継承・東日本大震災を踏まえて」

(研究代表者：廣田洋) 研究テーマ

後援 歴史資料ネットワーク・沿手歴史民俗ネットワーク・歴史文化財・歴史資料教育・保全ネットワーク・岡山史料・音楽・音楽資料研究会・鹿児島歴史資料防災ネットワーク(準備会)・神奈川地域資料保全ネットワーク・鹿本歴史史料・スヌーネットワーク(うちまくじアムネットワーク)・国際ミュージアム学会・歴史資料教育・歴史文化財・歴史資料研究会・自然資料教育ネットワーク・長野歴史建築・史料救援ネットワーク・新潟歴史資料教育ネットワーク・福井史料ネットワーク・ふくしま歴史資料保存ネットワーク(NIP)・法人宮城歴史資料保全ネットワーク・宮崎歴史資料ネットワーク・山形文化遺産防災ネットワーク(NIP)・法人歴史資料継承機構じゅんびん・歴史資料保護ネットワーク・島根・歴史資料保全ネット・わかやま・伊予史談会・愛媛ミニアジム研究会・愛媛県教育委員会・愛媛県歴史文化博物館・愛媛大学法文学部附属図書室・世界の歴史研究センター

問い合わせ

愛媛資料ネット事務局 胡光(えべすひかる)/愛媛大学法文学部

Tel: 089-927-9316

E-mail: ebisu.hikaru.me@ehime-u.ac.jp



平成28年度美術館・歴史博物館
重点分野推進支援事業

上: 松山城 下: 道後温泉

歴史資料とは何か

【資料1】奥村弘編『歴史文化を大災害から守る』(東京大学出版会、2014年)

・奥村弘「地域歴史遺産とは、研究のための歴史資料であるというその性質と、そこから明らかになる内容に着目するというよりは、残された『もの』を巡る地域における人と人との持続的な関係に重点を置く概念」

・久留島浩「研究者が身勝手に研究しているわけではないということを「前提」にするならば、「自分の研究と歴史・文化資料の保全」の両立から、少し意識的に『歴史・文化資料の調査・記録活動』に重点を移す必要がある」

・矢田俊文「民俗学者は民具を、歴史学者は文書を、美術史研究者は屏風を救出すればいいのではない。」「保管庫には何が収蔵されているかわからない。よって丸ごとのレスキューが必要である。そのため蔵論は必要であると考える。」

・平川新「地域に入って史料保全を続けるうちに、郷土を愛する心なくして歴史資料や文化財を守る心は十分に育まれないのではないか」「歴史研究者として自分がフィールドとする地域も郷土としてとらえることが必要なのではないか」

【備考1】地域災害から文化遺産と地域をまもる対策のあり方(内閣府、2004.7)

文化遺産は法律で規定されている文化財だけでなく、広い意味で歴史的な景観やまちなみ等空間的なものを含めるものとする。地域災害から文化遺産と地域をあわせてまもるという考え方においては、地域の核として認識されている文化遺産であれば、それは世界遺産、国宝などに限定する必要はないと考えられる。

【備考2】東北地方太平洋沖地震被災文化財の救援と修復に協力を(文化庁長官、2011.4)

指定・未指定を問わず文化財は、我が国はもとより人類が未来にわたって共有すべき貴重な財産であり、これらを後世に伝えていくことが、現代に生きる私たちの責務です。



石巻市本間家土蔵：震災の記憶：歴史を伝える

新聞記事のため削除

1 愛媛県の歴史資料保存

(1)伊予史談会

大正3年(1914)創立。『伊予史談』『伊予史談会双書』月例会。

戦前に古文書・古記録の収集と写本活動→伊予史談会文庫

(2)愛媛県立図書館

明治35年(1902)愛媛教育協会図書館開館。昭和10年(1935)愛媛県立図書館へ移管。昭和50年(1975)二番町から堀之内の愛媛県教育会館に移転し、現在に至る。伊予史談会文庫や愛媛県庁の行政文書(旧藩引継文書含む)。愛媛県史編纂の際に収集した諸家文書を保管。

(3)愛媛県歴史文化博物館

平成6年(1994)開館。愛媛県の歴史・民俗資料を収集。

(4)愛媛大学図書館

昭和24年(1949)持田地区に附属図書館。昭和39年(1964)城北地区に移転。

貴重書(米山日記、鈴鹿文庫、西条誌稿本、江島家文書など)

旧制松山高校蔵書(青島司令部のドイツ書籍を含む)



1 愛媛資料ネットとは



▼2001年3月24日に発生した芸予地震を契機に設立。
今治市内から歴史資料を救出し、保全。

愛媛大学法文学部に事務局。

県内の博物館や郷土史会と協力しながら、失われていく歴史資料の救出・保全活動を行う。

▼2004年8月の台風被害などにも対応
19年間活動を継続



2 愛媛資料ネットの活動と救出資料から分かること

▼加藤家文書整理(2001年3月の芸予地震被害の後に救出)ADEAC掲載。
今治藩領国分庄村屋加藤家(今治市)文書を保全。近世・近代文書2,800件整理完了。
愛媛大学へ寄贈。明治時代の郷土史『国府叢書』編纂関係史料や住友煙害史料。

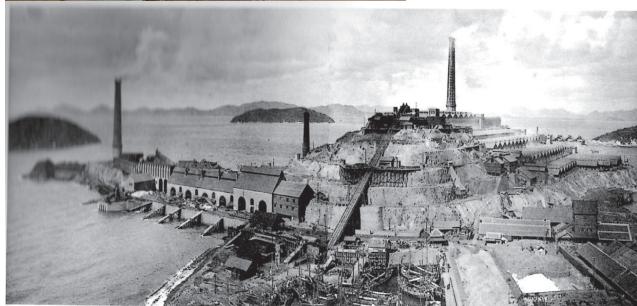


写真1 明治39年頃の四阪島製錬所 住友史料館提供



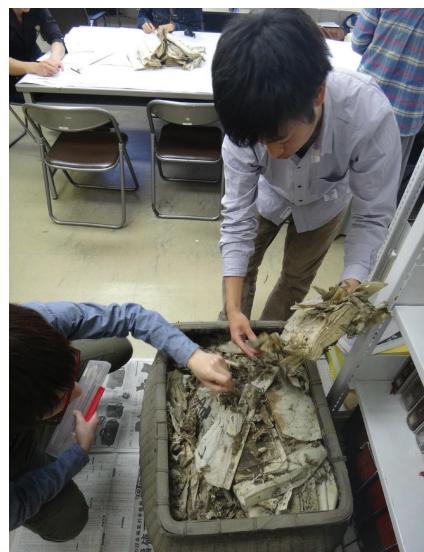
図1 四阪島 (現 愛媛県今治市宮窪町四阪島)

吉村久美子「曾我部右吉四阪島煙害関連資料目録」(『愛媛県総合科学博物館研究報告』17、2012年)を改編

▼藤田家文書整理(2004年8月の土石流被害から救出)

伊予国西条藩領多喜浜(愛媛県新居浜市)の庄屋藤田家母屋及び土蔵から古文書類・襖救出。土蔵の近世文書1,700件、母屋の近代文書1,355件の整理。塩田経営文書のほか安政南海地震に関する文書を分析





【資料2】「寅十一月五日より七日迄、地震二付 損亡所調へ帳」(抄)安政元年(1854)

自分普請

一、同拾壹番浜居小屋南手ねじれ、并ニ塩蔵家
根片かわ瓦落損し、北地場水吹出し土地少々下
り埋居、弐拾五枚之間

多喜浜御役所普請

一、新濱東手破戸端四間程崩レ

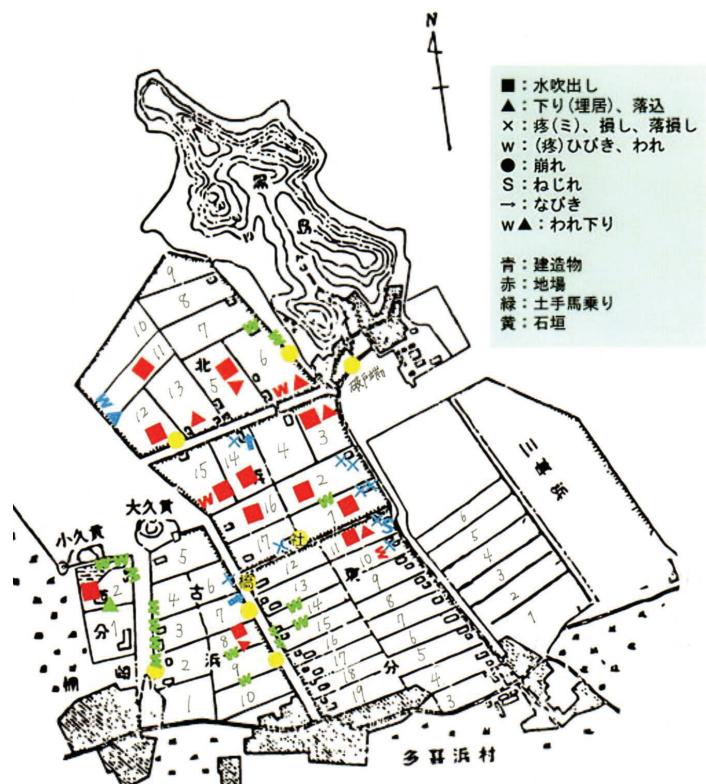
惣浜普請

一、相生橋台東石垣、高三間巾壹間半崩、橋落
申候

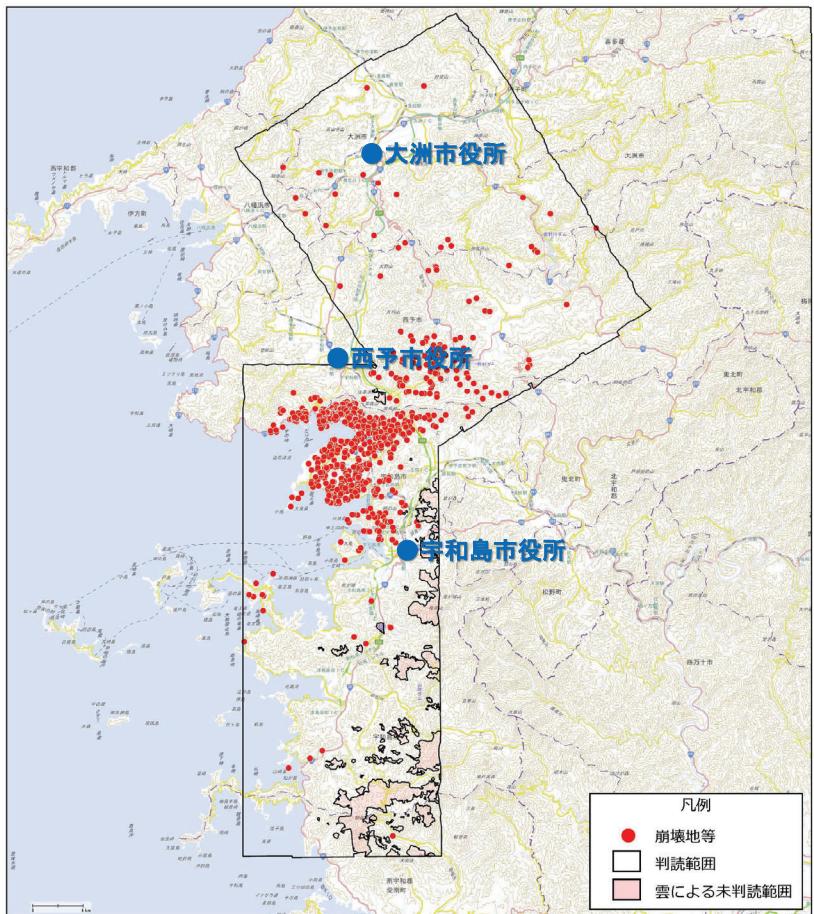
村普請

一、西分御蔵元より同式番浜樋之前迄、馬乗り百
六拾六間、土手われ申候。

右之通、去ル五日より七日迄、地震二付疼損亡二
而御座候、尤御普請所之儀者、先日御達申上候
通ニ御座候。



平成30年7月豪雨に伴う崩壊地等分布図 (大洲地区・宇和島地区)



3 平成30年7月豪雨被災状況



平成30年6月28日～7月8日
四国山地に1800mm以上の降水量
↓
肱川など大小河川の氾濫
(野村ダム放流)
斜面崩落(みかん畑)
***市役所・博物館は無事**
(大洲市博・愛媛県博・伊達博)

4 西日本豪雨における文化財の被害と保全活動

(1)国・県・市町指定文化財

県教育委員会文化財保護課が市町と協力して対応

→所在地が把握され、すぐ報告(7/20:10市町27件、動産は1件)

→法令に基づき修復

(2) 未指定文化財

愛媛資料ネットが県・市の博物館や教育委員会と協力して対応

→所在地調査から開始、緊急避難が必要



5 被災直後の保全活動

(1) 大洲市内の旧家から被災直後に古文書・書籍救出

3件約20箱、洗浄・乾燥作業を実施(愛媛県歴史文化博物館と合同)

大洲八幡神社古学堂の和本など(江戸～明治の私塾。シーボルトの弟子三瀬諸淵、

五稜郭設計者武田成章、書家三輪田米山などを輩出)

* 同社の古文書2,600点は、大洲市教育委員会・愛媛大学の合同調査で前月までに搬出しており、無事。



(2) 宇和島市吉田町から古文書・書籍救出

1件約100箱4000点、大量のため今後の洗浄・乾燥作業に備えて、冷凍して保管中

緊急避難した(7月15日)民間冷凍庫から、愛媛大学沿岸環境科学研究センター

<es-BANK>へ搬入(8月6日)



→水損した歴史資料の良好な救出方法の模索・解明(冷凍・解凍・乾燥)
→全国のモデルケース(避難場所、時間、方法等)



▲三崎漁協



▼愛媛大学法文学部



旧立間村文書救出の経緯

7月6~8日:豪雨被害

7月10日:県教委の公文書発給(未指定文化財救出は、資料ネットへ連絡する)

7月11日:旧立間村文書(宇和島市)約4000点の被災情報:

谷若参事(県教委)、大本学芸員(県博)、高嶋学芸員(伊方)、胡で協議し、
救出計画→ 冷凍庫・救出日確定・人員募集・資材検討(市へも協力要請)

7月12日:資材確保(段ボール120、大型冷凍パック4000など、問屋にて)

7月13日:資材搬入





7月13日の立間地区・立間公民館



7月14日の救出活動(洗浄、パック封入、箱詰)





7月15日の救出活動(愛媛県博～伊方町三崎漁協冷凍庫へ)



7月16日の救出活動(浸水しなかった文書の確認と乾燥)





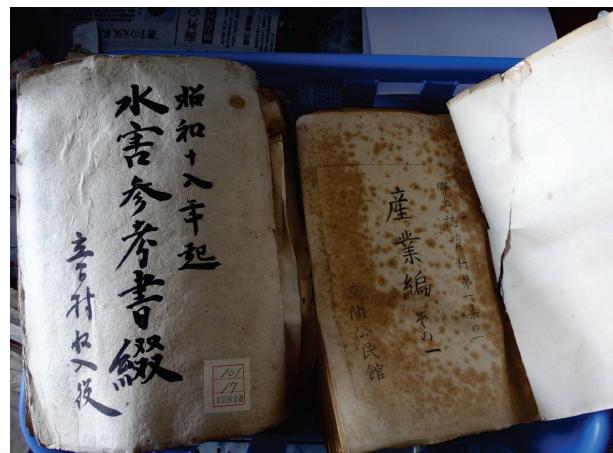
8月6日の活動(三崎漁協から愛媛大学es-BANKへ ←大学の災害対策本部に相談)



毎週続く保全活動(乾燥・修復・目録作成)



旧立間村文書(江戸～昭和時代の行政文書。昭和30年に吉田町に合併されるまで江戸時代の村が継続した稀有な行政村。役場跡が現公民館。愛媛みかん原木を有するみかん栽培の歴史資料、国指定文化財を目指す吉田祭礼に関わる古文書、戦前の水害に関する記録、四国遍路に関わる記録などがある。)



- (3)大洲市内の旧家で被災した甲冑などの復旧作業
- (4)大洲市・八幡浜市と共同で被災写真レスキュー講座開催
- (5)ツイッターで資料保存の呼びかけや写真救出法の公開



5 今回の保全活動の成果と課題

- (1) 水損資料の取り扱いが困難で緊急を要すること
資材や冷凍庫の確保、救出・保全活動の多様化・長期化 → 多方面の協力／愛媛大学対策本部など
- (2) 広域災害と甚大な被害のため、救出が追い付かない
→ 県外からの協力／博物館、資料ネット、全史料協
- (3) 未指定文化財マップの作成 → 所在調査が必要
SNSでの情報発信、文化財ネットワークの構築
- (4) 緊急時の対応力・現場の技術革新と伝承
→ 理想と現実のギャップ（真空冷凍？キッチンペーパー？アイロン？）



▼大洲市博物館

▲愛媛大学



 愛媛大学

25

芸予地震2001 西日本豪雨2018

<ボランティア> → <公的支援>
県・市

伊予史談会 → 地域の博物館

(創設時)

↑
地域の人々
情報・協力

→

愛媛県歴史文化博物館
大洲市博物館
宇和島市伊達博物館
伊方町町見郷土館

公務・備品・施設提供

連携
→
協定

連携
→
参加

↑
支援・協力

大学

災害対策本部

愛媛資料ネット
(→体制強化)
es-BANK
研究室・教員・学生

全国の史料ネット

歴史資料ネット
宮崎資料ネット
徳島資料ネット
ほか

支援
←
協力

↑
参加・支援

ボランティア
企業

← 高知大学
協力

* 西予市の公文書は、全史料協の指導で
ボランティアと臨時職員対応

 愛媛大学

26

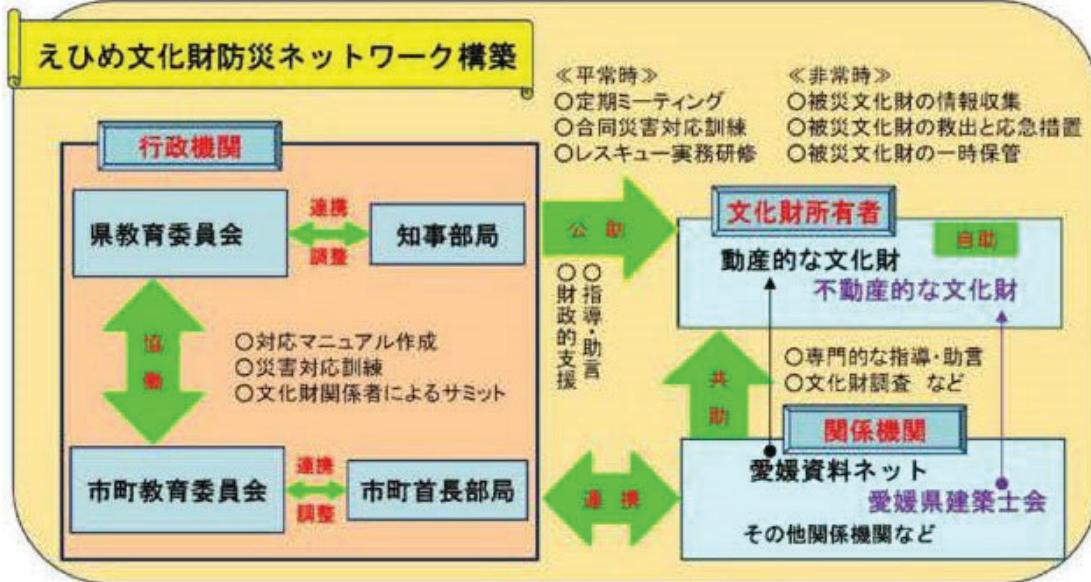
平成30年度
市町連携推進プラン
マニュアル作成



大学・県協力協定
令和元年度新規連携
優先課題



マニュアル見直し
未指定文化財マップ



2019.7.18 於愛媛大学
愛媛資料ネット総会 &
愛媛県文化財救出訓練

天野真志氏講演・ワークショップ♪



愛媛大学

27

6 大洲八幡神社古学堂の保存修復

【古学堂】

八幡神社宮司・常磐井家が作った伊予最古の図書館と私塾。

平田篤胤の弟子・矢野玄道も関係し、シーボルトの弟子・三瀬諸淵、五稜郭の設計者・武田斐三郎などが学ぶ。

【西日本豪雨】

古文書・古記録は、豪雨前に愛媛大学と大洲市教育委員会で調査中だったため、大洲市立博物館に保管中で無事。書籍が浸水したため、資料ネットで救出。建造物は被災したままであったため、宮司家によってクラウドファンディングで修復費を募集。



全国からの募金に感謝します。



愛媛大学

28

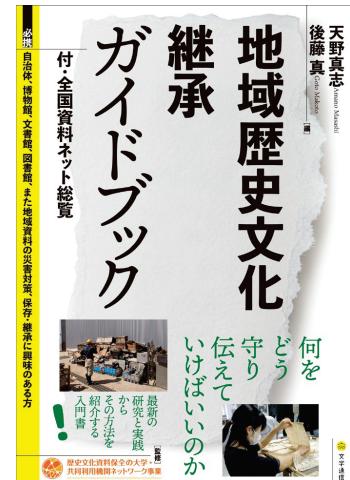
地域の歴史や文化の、何をどう守り伝えていいのか。

最新の研究と実践からその方法を紹介する入門書。自治体、博物館、文書館、図書館、また地域資料の災害対策、保存・継承に興味のある方必携!本書により、多くの方々が地域の歴史文化に関心を深め、新たな地域の担い手として活躍できるようになるよう、期待を込めて刊行いたします。

第Ⅰ部では、歴史文化資料の基礎知識として、古文書(記録資料)、民具、美術資料、公文書、震災資料など、それぞれの具体例、特徴を上げ、基礎知識がわかるようにしました。また保存・活用方法として、デジタルデータ・紙製品・木製品を取りあげます。また資料保存の担い手と技術をつなぐ、ワーキョップの方法なども取りあげました。

第Ⅱ部では、地域を主体として資料保存活動を推進する「資料ネット」について紹介。1995年阪神・淡路大震災を契機に誕生した「資料ネット」は、その後各地で自然災害が多発するなか、全国に拡大しました。現在活動している団体の概要を、それぞれの団体自身により紹介し、読者が地域を主体とした持続的な取り組みを実践するネットワークとつながることができるようになりました。

執筆は、天野真志、後藤 真、平川 南、加藤明恵、川邊咲子、安田容子、松岡弘之、吉川圭太、山口悟史、岡田 靖、永村 真、川内淳史、佐藤 琴、阿部浩一、添田 仁、作間亮哉、高山慶子、金井忠夫、長谷川明則、鈴木凜、宇野淳子、西村慎太郎、原 直史、白水 智、山本英二、藤谷 彰、堀田慎一郎、小野塚航一、吉原大志、藤 隆宏、橋本唯子、小林准士、石田雅春、下向井祐子、伊藤 実、町田 哲、胡 光、楠瀬慶太、今村直樹、山内利秋、佐藤宏之。



天野真志
Goto Motoo
後藤真
Goto Masaharu

出版
自法文、博物館、文書館、図書館、また地域資料の災害対策、保存、継承に興味のある方

アーティス

アーティス